

# 平成27年度 妙高市外国語活動部 活動報告

部長 渡邊 友也

## 1 研究主題 「小中連携した外国語活動のあり方」

### 2 研究の概要

妙高市教育研究会外国語活動部会は、中学校の英語部会と共に活動を行っている。このことにより、小中学校教員が共通の課題をもち、共に研修を行っているので、小中連携を円滑に進めることのできる状況にある。

8月には、「CAN-DO リストを活用した学習到達目標の設定と評価」についての研修を行い、具体的な授業場面を想定して評価のあり方について検討した。

11月には英語教育推進リーダーや中核者を講師として研修を行った。小中学校の円滑な接続、小中学校における英語教育の現状と課題、具体的な授業スタイル等について意見を交流した。

### 3 研究の実際



2020年から小学校高学年では外国語教育が教科として扱われる。その背景と現行の外国語活動や中学校の外国語教育の課題についての話があった。その中で、大切にしてほしいことのいくつか紹介された。

- 今の外国語活動を大切にしてほしい。
- 教科化に向けた先走りはしない。
- 担任は、英語をもっと使ってほしい。
- 単元で、どんな力をつけてもらいたいかを明確にしてほしい。

その後、英語でゲームの仕方を説明する場面の模擬授業を行った。上述のように、「英語をもっと使ってほしい。」ということ意識してもらおうというねらいであった。この活動のポイントは、英語だけで説明しつつ、小学生にも分かるように伝えることである。そのため、ジェスチャーや役割演技なども用いての模擬授業となった。また、中学校の教員も参加しているので、簡単に分かりやすい英語表現をアドバイスしてもらおうなど、実践的な研修の場となった。参加者から「これからの活動で、英語をもっと多く使いたい。」「ALTに任せっきりだったが、積極的に授業を行いたい。」の声が聞かれるなど、有意義な研修となった。

### 4 成果と課題

小中の教諭が研修において、小中の連携や教諭の授業力、児童生徒の英語力等の視点から活発な意見が交わされた。ホームルーム・イングリッシュを日常的に使うことの重要性を中学校教諭から教えていただいたことは、小学校教員にとって大変有意義であった。

次年度も、各校における外国語活動研修をさらに充実させるために、教員の英語力、授業力を向上させていくことが求められる。